

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援センター 三気の家		公表日 令和8年4月13日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 床に置かないよう、危険回避している。 • 活動やリズム、製作等）人数に応じて、臨機応変に部屋を使い分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> • サーキット専用の部屋等があると、準備時間を減らせるのではと思う。 • 使用頻度に分けた収納の工夫。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • スタッフの体調などで、急な休みが増えるなど、その日の活動を調整したり、臨機応変に対応している。 • その日の子どもたちの様子やスタッフの人数によって、活動時のスタッフ数などを考えている。スタッフの人数が多い場合は、他の作業をするようにディレクターが指示をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 休みや行事などで、活動によってはより手厚い支援が必要になるため、更に体制を整える必要がある。 • チームで可能な限り対応しているが、追加のサポートがあると、より高い品質で療育に取り組みると感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	7	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもだけでなく、保護者にも分かりやすい空間が作られていると思う。 • スケジュールなどは視覚的に分かりやすいように提示している。各部屋にも分かりやすいよう部屋の名前を掲示している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 建物の構造上、バリアフリー化は難しい状況。利用児の状態に応じ、配慮・検討をしていく必要がある。 • 段差がある（階段の段差が他施設と比べて大きい）。 • エレベーターなどがあると、ケガがあった場合に対応しやすい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 活動後に、毎日片づけ・掃除を行っている。 • 季節に応じて加湿器を使用。 • 利用児の事も考えて、整理整頓を心がけるようにしている。 • 清掃のスタッフもおり、清潔には以前に増して保たれている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの気になるような、目線位置に物を置かない等、更なる環境整備が課題。 • 玩具が散乱しているときがある。新しい教材を増やす時間の確保を検討。 • 教材などが出しっぱなしになっているときもあるため、気付いたら片付ける、整えるなどの整理整頓をさらに徹底していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • スタッフ間で話し、必要があれば個室を利用することもある。 • 別室を使用する際はスタッフ同士で声を掛け合い、共有し合っている。 • 活動に応じ、又、クールダウン等のため、空いている部屋を使用できている。 • パーテーションで、刺激を調整している。 	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 委員会活動では、PDCAサイクルを実践している。 • 毎月の反省会、朝礼での申し送りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 委員会スタッフ主体で運営しているが、周知内容をより分かりやすく伝えるための仕組みづくりが今後の課題となっている。 • 実施しているが、時間の確保が課題。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 面接等、個別に話せる時間を設けている。 • 年1回、評価表にて回答をもらっている。回答は職員間で共有。評価表だけでなく、日頃の連絡帳、面談等においても、保護者の意向を汲み取る機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者の声に十分に目を通しきれていない点は課題であると感じており、今後はより丁寧に把握し、改善に生かせるよう努めたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 年に1回アンケート、面談実施。 	<ul style="list-style-type: none"> • スタッフ個々の意見を全体へ共有する仕組みが十分でない点は課題が残る。園長等との定期的な話し合いの場を設ける必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1	<ul style="list-style-type: none"> • 第三者評価は未実施ではあるが、保護者や行政から寄せられる声を積極的に取り入れ、改善に生かす体制づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度の実施を予定している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	1	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な分野の園内外の研修参加と研修報告が実施されており、毎回勉強になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 人員体制の都合で研修参加が難しい場面もあることが課題でもある。今後もスキルアップにつながる研修情報の収集に努めたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 個別支援計画書の作成後は、スタッフ全員で内容を共有し、意見交換を行っている。また、担当者会議やモニタリングの場でも情報を公表し、支援の方向性を確認している。 • 掲示板や広報誌を通じた周知も行っており、職員会議の時間を活用して検討と共有を進めている。前日の反省会での振り返りを当日のプログラムに反映するなど、継続的な改善に努めている。さらに、保護者支援の視点も重視し、子どもだけでなく家庭を含めたアセスメントや課題分析に取り組んでいる。 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • スタッフ間で共有されている（日々の朝礼時、夕礼時、個人記録会議で共有が来ている）。 • 担当への聞き取り、モニタリング、専門職からのアドバイスで作成されており、各担当が、各項目のアセスメントや今後の課題を考えている。 	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児発管が中心となり、多職種の視点でチームとして多面的に意見を出せるよう工夫している。 ・スタッフ全員で、モニタリングの結果と次の課題目標を伝え合っている。 ・先輩スタッフに相談しやすい環境であり、色んな意見をもらえるのがありがたい。 ・面談と同様に担当を中心に考えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間は短いですが、会議を行っている。もう少しゆっくりに時間が取れるといい。 ・意見を出すスタッフが決まっているため、少しでも多くのスタッフの意見を聞き出せる工夫とスタッフの発言力の向上が課題。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全スタッフで会議等で伝え合い、支援内容等を共有している（閲覧も可能）。 ・個別支援計画と月間目標をリンクさせ、スタッフ間の情報共有のもと支援にあたっている。併せて毎日振り返り会を行っている。 	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの適応行動は、日々の関わりで得られる観察を中心に、個々の特性に応じたインフォーマルな評価を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化ツールを用いたフォーマルな評価は、十分に整備されておらず、共通理解を深めるための研修や知識共有が、今後の課題となっている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性や発達段階に応じて、集団活動と個別活動を組み合わせて、各項目のねらいを踏まえ、設定できるよう努めている。 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの中心となるスタッフを毎日交代している。 ・スタッフ間で相談しながら、アイデアを出し合っている。 ・季節のイベントやレクリエーション等、工夫が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が似通ってしまう時期もあるため、バリエーションを増やす工夫や情報収集が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で話し合いながら、内容や目的にも合わせて人数調整をしている。 ・音楽タイムや感覚タイムなどの小集団活動に加えて、学習やSTなどの個別活動を毎月実施している。 ・活動グループを固定化せず、適宜に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動が主である。が、小集団活動、個別活動を組み入れバランスを取っているが、個別の活動の時間の組み込みが課題。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼を行い、当日の活動内容や役割分担、配慮点や支援のねらいなどを確認している。併せて必ず前日の利用児の様子も共有している。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・園児個人とプログラム構成全体の反省会を毎日実施しており、自由に意見を言い合っている。必要に応じて、記録も参照。その日の活動で、うまくいった点や難しかった点を出し合う。次に活かせるように翌日の活動に向けて話し合い、情報共有している。 ・小さな事でもスタッフ間で伝え合っている。 	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが日誌に記入している。 ・夕礼時、スタッフ間での情報共有と共に対応・対策などに話し合い、改善に努めている。併せて子どもの目標の振り返りを行い、記録している。 ・個人の毎日の記録、翌日のスケジュールに反映されている。 	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で共有し、意見を「一人一発言」は心掛けている。 ・保護者、担当、児発管の3人でモニタリングを行い、それぞれ見直しを行っている。 		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況を最も把握している担当職員が、参加するようにしている。ただし、参加できない場合には、情報共有を十分に行った上で、他のスタッフが代わって参加できるように調整し、子どもの状況が適切に伝わる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育中のスタッフが会議に参加できない場合があり、常に担当者が出席できる体制の確保が課題となっている。今後は、より安定して情報共有が行えるよう、参加体制の整備を検討していく必要がある。 	
		11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断等の際には、園内で嘱託医による診察を実施し、子どもの健康管理体制を整えている。 ・子どもが病院受診に不安を抱く場合には、一人ひとりの状況に応じた丁寧な対応を行い、保護者へも適切に情報を共有している。 ・必要に応じてリハビリテーション機関と連携し、併用している保育園等には保育所等訪問支援を活用している。訪問後は、子どもの様子や取り組みについて保護者から聞き取りを行い、支援に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療との連携については、現状十分とは言えず、今後の重要な課題として改善に取り組んでいく必要がある。 	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	5			

26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	・保育所等訪問支援だけでなく、月1回の保護者面接や連絡ノートを通して、日々の様子や状況の確認も併せて行っている。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	・書面での共有だけでなく、療育場面の参観や会議を企画し、学校側へ積極的に働きかけている。実際の様子を見てもらう機会を設けることで、子どもの理解が深まるよう工夫している。	
28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	0	・2023年度より、熊本市児童発達支援センター機能強化事業を熊本市から受託し、機能強化員を1名配置している。地域の児童発達支援センター、障害児通所支援事業所、基幹相談支援センター等と積極的に連携し、情報共有や支援の調整を通じて、地域全体の支援体制の質の向上に取り組んでいる。	・一部のスタッフを中心に連携を進めているが、取り組みの効果や向上の状況については、今後さらに検証し、改善を図っていく必要がある。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	11	0	・研修への参加機会が確保されており、スタッフの専門性向上に役立てている。 ・研修や他園(児童発達支援センター)との意見交換を通じて、知識や支援方法の共有を進めている。 ・複数の専門家によるスーパーバイズを受け、スタッフの質や療育の質、対応力の向上を図っている。また、事例検討を通じて具体的な支援の改善にも取り組んでいる。	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	11	0	・こども部会へ参加しているスタッフも在籍しており、会議や活動に積極的に参加できている。	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			・他事業所の見学や相談を受け入れる機会を設けている。また、講話会や研修を企画し、地域の事業所へ周知することで、参加を通じた学びや助言の共有が進むよう取り組んでいる。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11	0	・開園当初から地域のこども園と定期的に交流を行っており、園児もこの機会を楽しんで参加している。当園とは異なる活動や体験ができ、子どもにとって貴重な学びと交流の場となっている。 ・年度末には、次年度の交流計画について交流圏の保育士と協議し、より良い取り組みとなるよう、意見交換をしている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1	・日々の送迎時や連絡帳、定期的な面談を通して保護者と情報共有を行っている。その日の活動内容や頑張ったこと、気になる点などについて伝え合い、子どもの状況について共通理解が持てるよう努めている。普段から顔を合わせて話す機会を大切にし、必要に応じて上記以外の方法でも相談できる体制を整えている。 ・保護者対象の学習会においても、子どもの様子や支援に関する情報を共有している。	・日々の活動内容や連絡事項が中心になりがちのため、発達状況や支援のねらいについても、より具体的に伝えられるよう、言葉の工夫や可視化の方法を取り入れるなど、改善を進めていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	0	・他事業所が企画した講座のチラシを掲示し、保護者に情報提供。	・他事業所が企画する研修や講座にスタッフが参加し、知識や視点の向上に努めている。当園での実施に向けて、必要な情報の収集を進めている。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	・園長を中心に丁寧な説明を行っている。 ・必要に応じて個別に説明の機会を設け、利用者が安心して理解できるよう配慮している。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	・モニタリングを行う中で、家庭の様子も詳しく聞き取り、支援について保護者の希望も取り入れ作成している。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0	・児童発達支援管理責任者が個別に説明を行い、内容について丁寧に説明したうえで同意を得ている。 ・保護者の都合を確認し説明の時間を設定し、ゆっくりと分かりやすく伝えるよう努めている。保護者の反応にも注意を向け、理解しやすい環境づくりに努めている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	・チームで取り組んでいる。 ・日常的に保護者から相談しやすいようコミュニケーションを取ると共に、連絡ノートやLINE、面談以外にも、随時話しを聞き、助言や支援を行うよう努めている。 ・毎月の面談において、子どもの様子や関わり方について、一緒に整理しながら、助言や支援を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園・父子通園・親子タイムなど、保護者参加型の療育を実施している。ファミリー学習会では、グループワークを取り入れ、保護者同士が意見交換しやすい交流の機会を設けている。運動会やDRでは、きょうだい児や親戚の参加も可能とし、家族全体で関われる場となっている。保護者会実施の場所の提供も行っている。 ・きょうだい児同士の交流に特化した企画は、現時点では実施できていないが、運動会やDRなどの行事では、きょうだい児も参加でき、家族で関われる機会を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児同士が交流できる機会が限られており、今後は保護者やきょうだい児も含めた交流の場をどのように設けていくかが課題となっている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもや保護者からの相談や申入れについては、スタッフ間で速やかに情報を共有し、迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談や申入れへの対応体制は整えているものの、保護者への周知方法のさらなる工夫や、スタッフ全員がより専門的な対応スキルを身につけられる研修体制の充実が今後の課題となっている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌「さんぎ」を月1回発行し、配布するとともに、ホームページにも掲載して情報発信を行っている。 ・機関誌さんぎを月1回発行、配布している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信やホームページでの情報発信は行っているものの、SNS等を活用したより幅広い情報提供にはまだ取り組めておらず、今後の検討課題となっている。また、発信を担う人材の育成や、効果的な配信に必要な専門知識の習得も課題として挙げられる。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・処分する書類はシュレッダーを使用し、気を付けている。 ・棚に鍵をかけている。書類は机内で保管。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや水筒、エプロンなどの取り違えが発生することがあり、個人情報として適切に扱う意識をより徹底する必要がある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・選択が必要な場面では、実物を用意するなど、こどもが理解しやすい方法で意思決定を支援している。 ・スタッフ間で情報を共有し、保護者の状況や配慮点についても共通理解を図っている。 ・こどもや保護者に対しては、分かりやすい言葉を用い、短く丁寧に説明することを心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもや保護者の特性に応じた情報伝達の工夫は行っているものの、視覚的支援ツールの充実や、より専門的なコミュニケーション方法の習得など、対応の幅を広げるための体制整備や研修企画が今後の課題となっている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	6	<ul style="list-style-type: none"> ・園周辺を園児と一緒に歩く機会を多く設けており、地域の方々から挨拶や声をかけていただき、周辺の皆さまに「この園の子どもたち」と認識していただけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌を配布するなど、知って頂く工夫が課題となっている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、避難訓練を行っている。様々なパターンを想定して訓練を行っている。また連絡網による伝達訓練も行っている。 ・消防署の方に直接来てもらい、訓練を行う機会を設けている。 ・各マニュアルが作成され、スタッフが確認できる場所に配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの保管場所については、職員へ周知しているが、内容の理解や実際の場面で使いやすい形にするためには、更なる改善が必要である。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回避難訓練を行い、訓練後には必ず反省会を行い、次の訓練に活かしている。 ・様々なパターンで訓練を行っている。 	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・該当児の発作時の対応については、必要な情報を用紙にまとめ、スタッフがすぐ確認できる位置に掲示しているほか、スタッフ会議等で共有を行っている。 ・利用開始時には保護者から丁寧に聞き取りを行い、支援に必要な情報を把握している。 ・てんかん発作の状況については記録を残し、継続的な観察と支援に活かしている。 ・薬を預かっている場合には、定期的に入れ替えを行い、安全に管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬状況等の健康情報について、定期的な確認と更新を徹底していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のスタッフにも相談し、間違いの無いように十分に気を付けている。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0		<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理がメインの研修や訓練は色々なパターンで更に必要である。
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、AED研修、暴風訓練などについては、重要事項説明書での説明に加え、月間予定表や機関誌を通して実施予定や実施報告を行い、保護者へ周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡訓練は実施しているものの、実際の園児の引き渡し方法や避難時の動線、保護者との合流手順など、より具体的な対応を想定した計画と訓練の充実が今後の課題となっている。 	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント（ミニヒヤリハット）報告を促進し、情報共有、再発防止に向けた会議を行い、日頃から安全意識を持ち続けられるよう、継続的に働きかけや工夫を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止対策に限らず、スタッフ同士の声かけや相互サポートを大切に、主体的に支え合えるチームづくりを常に意識していきたい。 	

	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 年度ごとに各委員会活動と報告等が行われている。 • 研修を実施し、適切な関わり方や不適切な対応防止についての意識づけを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 虐待防止対策に限らず、スタッフ同士の声かけや相互サポートを大切にし、お互いを支え合えるチームづくりが虐待防止につながると考えている。日頃からコミュニケーションの取り方や言葉の選び方に配慮し、安心して働ける環境づくりを意識していきたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	0	<ul style="list-style-type: none"> • 同意書を取得するとともに、どのような場面で身体拘束が想定されるか、また身体拘束に該当する恐れがある対応についても共有し、会議や検討会で慎重に協議するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身体拘束の範囲や考え方は時代とともに変化しているため、何が身体拘束に該当するのかについて、社会的な動向や最新の基準に常に目を向けておくことが課題。